

総合的な学習の時間（ヒューマン・セミナー）学習指導案

日 時 令和4年 5月27日（金）公開授業I
 学 級 岩手大学教育学部附属中学校
 1年D組35名
 会 場 1A3A教室
 授業者 佐々木 聡 也

1 単元名 「盛岡の地域課題」とは何か

2 単元について

(1) 生徒観

本校では、総合的な学習の時間（ヒューマン・セミナー、以下HS）を教育課程の中核に据え、教科や特別活動の内容を有機的に関連付けながら実践を積み重ねてきた。特に令和1年度からは「地域」を視座に探究的な学習を行っている。附属小学校6年生でも同じく「地域」にスポットを当て、自分の興味・関心に合わせて課題を設定し、探究して学習の成果を報告する「卒業研究」を総合的な学習の時間のまとめとして位置付けている。中学校ではこれらの学習を想起させながら、より各教科で培った見方・考え方を働かせて、探究的な学習の質的向上を図り、グループで他者と協働しながらその課題の解決に向けた取り組みを立案・実行させたい。

5月の連休、生徒は「盛岡の地域課題」と題した調査レポートを作成している。1学年140名分のレポートを整理・分類すると、生徒が考える「盛岡の地域課題」は12のラベルで示すことができた（図1）。最も注目度が高かったラベルは「少子高齢化・過疎化」、「商業・観光」、「道路・交通」などである。盛岡に限らず地方都市に多く見られる課題として、ニュースで耳にすることが多かったり、生徒が生活していて実感する回数が多かったりすることが頻出の理由であろう。一方で、「南部鉄器」、「三大麺」、「肴町商店街」など、盛岡という地域固有の事柄について調べたものも多く見られた。どれも課題であることは間違いないが、盛岡というフィールドを意識した課題や、中学生の私達が知るべき・学ぶべき課題に目を向けさせ、単元の学習を進めていきたい。

(2) 教材観

HSの学習が始まったばかりの1学年であるが、大切にしているのは「学び方」の学習である。学習指導要領において最も注目されるキーワード「探究」、その過程として示される「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の各セクションを、単元の中で重点的に取り上げながら学習を進めることで、探究的な学習の質的向上が図られ、延いては学習内容の深まりへと繋がっていくものと考え。探究的な学習のサイクルを回し始める4・5月においては、「課題設定」や、その前段階である「課題の発見」に時間をかけ指導を行っていく。「そもそも課題とは何を指すのか」、「私達が課題だと感じていることは、本当に課題と呼べるのだろうか」、「中学生の私達が知るべき・学ぶべき課題は何か」といった問いに、データを根拠にした分析や他者との議論を通して向き合わせていきたい。

「課題設定」や「課題の発見」は、単元を通して生徒が主体的に探究的な学習に取り組むために、最も重要なセクションであると捉えている。図1に示すように、本校HSでもSDGsと絡めた学習を行っているが、SDGsの内容ありきの課題設定ではなく、SDGs策定の経緯をたどった課題設定にこだわっている。SDGs策定の過程においては、約190の国連加盟国が具体的な地域課題を調査・報告し、それらをボトムアップして169のターゲットと17のゴールを設定している。これから行うHSの探究的な学習においても、生徒自らが課題意識をもつ事柄について調査し、それらを整理・分類するボトムアップから始める。単元の終わりには“私達のSDGs”が“世界のSDGs”と繋がっていることや、地域の小さな課題一つ一つを解決することが社会全体のWell-beingに繋がるという全体像を実感できるように、単元の学習を進めていきたい。

(3) 教科研究との関わり（指導観）

① 総合的な学習の時間における「育成を目指す資質・能力」

ア 探究的な見方・考え方を働かせて、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、根拠を明らかにしてまとめ表現する力。（思考力等）



× SDGsの「内容」をもとにする
 ○ SDGs策定の「経緯」をもとにする

『盛岡の地域課題』12のラベル【ver. R4-0520】



図1 SDGs策定の経緯をもとに作成した盛岡の地域課題

- イ 探究的な学習に、互いのよさを生かしながら共働的に取り組むことを通して、考えを再構築したり、合意形成を図ったりする力。(協調性等)
- ウ 実社会や実生活の中から問いを見出す力。積極的に社会に参画しようとする態度。(主体性等)

② 研究の視点

ア 主体的・対話的で深い学び

生徒の主体的な学びを実現する為に、「課題の発見」を含めた「課題設定」を生徒自身に行わせることは重要である。HS を通して考えさせたい『「地域と関わる』とはどのようなことか』という問いも、探究的な学習の過程で身に付けさせたい様々なスキルも、課題解決に主体的に向き合うことで、考える必然性や、会得する必要感が生まれると考える。また複雑化する現代社会においては、いかなる課題についても一人だけの力で解決することは困難であることから、生徒・保護者・教師・地域の人々等、様々な他者と協働的に取り組む場面を設定し、課題の解決に向かっていく。

イ 情報・情報技術の効果的な活用

探究的な学習の充実を実現する上で、個別学習・協働学習の双方で ICT 機器は欠かせないツールとなっている。本単元においても、課題の把握のための情報収集、実地調査やインタビューの記録、レポートやプレゼン資料の作成等、様々な場面で ICT 機器を活用し、生徒の活動を充実させたい。また、個人メールも活用できることから、活動において協力を仰ぎたい機関や人物に対して質問したり連絡したりすることも可能となる。加えて、地域の魅力や自分たちの活動を配信するといったアウトプットの活動に活用することも考えられる。情報モラルと情報リテラシーの双方に留意しながら、自分たちの活動がより主体的かつ効果的に行われるよう、一人一台端末の良さを生かしながら学習を展開していきたい。

ウ 小中連携を生かしたカリキュラム・マネジメント

小中連携においては各論に示すように、①資質能力、②表現スキル、③地域学習の三点を連携の柱としてカリキュラム・マネジメントを行っている。

②表現スキルについて、小学校では「発表する」、「発表を聴く」、「質問を出す」、「質問に応える」などの表現スキル (Closed Skills) を身に付けている。中学校ではこれらをもとにしながら、より相手を意識した「議論する」、「議論をコーディネートする」といった表現スキル (Open Skills) を育成することを目指す。

③地域学習について、前項で述べたように、附属小学校6年生では地域にスポットを当て、自分の興味・関心に合わせて課題を設定し、探究して学習の成果を報告する「卒業研究」を総合的な学習の時間のまとめとして位置付けている。中学校ではこれらの学習を想起させながら、より各教科で培った見方・考え方を働かせて、探究的な学習の質的向上を図り、グループで他者と協力しながらその課題の解決に向けた取り組みを立案・実行させたい。最終的には「地域を知る」に留まらず「地域で活動を興す」ことを通して、社会参画を視野に入れた自分の生き方を考える契機とさせたい。

本単元においては、社会科 (現代社会) の見方・考え方「課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関係付けること」、理科の見方・考え方「質的・量的な関係」、「比較したり、関係付けたりする」、国語科の (言葉による) 見方・考え方「言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること」、道徳科における見方・考え方「自己との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え」などの複数の教科の見方・考え方と関連させ、教科横断的な指導を図りたい。

3 単元計画

(1) 単元の見通し

盛岡に関する調査を通して、盛岡の様々な魅力や課題、またその課題の解決に向けて尽力している人々の生き方について理解を深め、「地域と関わる」とはどのようなことか考えるとともに、自分の生き方に生かそうとすることができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 調査活動を通して、盛岡には様々な特色があり、様々な人が関わり合いながら地域課題の解決に向けて尽力していることを理解している。	① 収集した情報を整理・分析し、盛岡の魅力や課題を根拠をもとに適切に捉え、表現してる。	① 自分や他者の意見や考えの良さに気づきながら、協働的に取り組もうとしている。
② 調査活動に関わるスキルを目的に応じて自覚的に使用している。	② 調査内容を相手や目的を意識し ICT 機器等を活用しながら分かりやすくまとめたり表現したりしている。	② 盛岡の地域課題の発見と地域課題の解決に向けて尽力している人々に関する調査を通して、自分の生き方について深く考えようとしている。

(3) 指導の計画（探究の過程：課題の設定）

探究の過程	時	・学習内容	関連する評価の観点			・評価方法
			知技	思考	態度	
	1	■「HS オリエンテーション」 ・HS とは ・3年間の見通し				
課題の設定 (9時間)	2	■「課題を見出す練習」 ・ICTを用いたグループワーク，課題を見出す練習	②	①		・学習シートの内容 ・グループ活動の様子
	3	■「盛岡の課題発見I」 ・課題発見に向けて ・GW中の宿題確認	①	①		・レポートの内容
	GWのレポート課題 「盛岡の課題」として調べ学習や実地調査（インタビューや体験）を行いレポートにまとめる。					
	4	■「盛岡の課題発見II」 ・レポートの提出 ・宿題の交流	①	①		・レポートの内容
	5	■「盛岡の課題発見III」 ・発表原稿作り			①	・プレゼン資料
	6	■「盛岡の課題発見IV・V」				
	7	・学級内発表会 ・レポートに関わる質疑応答		②	①	・プレゼンの様子や内容 ・質疑応答の内容
	8 本時	■「盛岡の課題発見VI」 学習課題：中学生の私達が深掘りすべき課題 ベスト6はどれか。			①	・学習シートの内容 ・グループ活動の様子
	9	■「盛岡の課題発見VII」 ・課題を学年で共有 ・グループ希望調査，編成			②	・学習シートの内容
	10	■「探究課題設定」 ・グループ編成 ・課題の設定 ・活動の見通し	①			・学習シートの内容
情報の収集	11	■「情報収集の練習」 ・情報収集の仕方，調査の深め方				
	12	■「課題解決に関わる人調べI」 ・グループによる調査学習				

：

4 本時について

(1) 指導目標

収集した情報を整理・分析し盛岡の課題を根拠をもとに適切に捉えたり，中学生の私たちが知るべき・学ぶべき課題を考えたりしながら，「中学生の私達が深掘りすべき課題ベスト6」を決定する議論を行わせる。

(2) 評価規準

収集した情報を整理・分析し地域の魅力や課題を根拠をもとに適切に捉えると共に，中学生が関わるべき課題であるかを考え，表現している。【思考・判断・表現】

(3) 授業構想

導入では，SDGs 策定の経緯を引き合いに，前時のレポート発表会で出された具体的な課題を 12 のラベルに分類することを示す。ここで Well-being の考えに触れ，これから始まる探究的な学習は全て，社会全体の幸福（盛岡が岩手が，延いては世界全体が良くなること）へと繋がっているという全体像を把握する。これにより，課題解決の視点が「自分の為」，「一企業の為」といった一面的な見方に陥ることなく，多面的な見方と広い視野で物事を捉えることができる。と考える。

展開では，図2のような3つの視点で物事を比較することができるバブルチャートを活用して，「中学生の私達が深掘りすべき課題ベスト6」に迫っていく。ICTの共同編集機能を活用しながら生徒の対話を促し，課題を捉える様々な視点で議論しながら深い学びへと繋げていきたい。最終的には個人による投票となるが，協働的な学びで得られた見方や考え方をメタ認知させながら，投票を行わせたい。

終結では，データをもとに事象を見ること，視点の変化によって課題意識が変わること，中学生の私達にも課題解決に向けてできることがあることなどを振り返りながら，今後の活動への見通しを持たせたい。

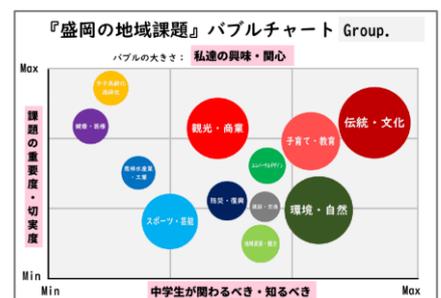


図2 生徒が操作するバブルチャートの学習カード

(4) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	指導上の留意点および評価 ・指導の留意点 ○評価															
導入 10	<p>1. 前時までの活動を整理し、本時の見通しを持つ。</p> <p>【140の具体的な課題を集約した12のラベル】</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>伝統・文化</td> <td>農林水産業・工業</td> <td>商業・観光</td> <td>ユニバーサルデザイン</td> <td>環境・自然</td> </tr> <tr> <td>道路・交通</td> <td>地域資源・魅力</td> <td>防災・復興</td> <td>健康・医療</td> <td>子育て・教育</td> </tr> <tr> <td>少子高齢化・過疎化</td> <td>スポーツ・芸能</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>2. 学習課題を確認する。</p>	伝統・文化	農林水産業・工業	商業・観光	ユニバーサルデザイン	環境・自然	道路・交通	地域資源・魅力	防災・復興	健康・医療	子育て・教育	少子高齢化・過疎化	スポーツ・芸能				<ul style="list-style-type: none"> SDGsの17のゴールと169のターゲットが策定された経緯を学びながら、生徒が調査してきた140の具体的な地域課題を12にまとめ、示す。 「問題発見に必要な5W1H(特にwhy?を重視)」を再確認する。
伝統・文化	農林水産業・工業	商業・観光	ユニバーサルデザイン	環境・自然													
道路・交通	地域資源・魅力	防災・復興	健康・医療	子育て・教育													
少子高齢化・過疎化	スポーツ・芸能																
展開 35	<p style="text-align: center;">中学生の私達が深掘りすべき課題ベスト6はどれか。</p> <p>3. ロイロノートで投票し、ランキングを行う。 →学習前の生徒の実態を把握する。</p> <p>4. ランキングの視点を確認する。 →本時は、複数の視点を取り入れて12のラベルについて考えていくことを確認する。</p> <p>【生徒が挙げると考えられる視点の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題の重要度、切実度 ・ 課題の認知度 ・ 課題の緊急性 中学生が関わるべき課題 ・ 中学生の興味関心 <p>5. 12のラベルを多面的に捉える。＜グループ活動＞ →4で挙げた視点「重要度・切実度」、「中学生の関わり」、「興味関心」でバブルチャートを作り、それぞれのラベルの特徴を多面的に捉える。</p> <p>6. 学級内で共有する。＜学級活動＞ →各視点について、詳しく情報収集・議論が行われているグループの活動を紹介し、学級全体の活動の質を高める。</p> <p>【取り上げたい議論の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「重要度・切実度」：前回の○○さんのレポートを見ると、少子高齢化の問題は全国と比較しても重要度は高く…。 「中学生の関わり」：附中にも三大文化があり、それを継承している。その経験は伝統・文化の問題解決に生かせそうなので…。 「興味関心」：このグループでは小さい弟妹をもつ人が多く、盛岡の子育ての問題についてよく知っているのですが…。 <p>7. チャートを修正・改善し、更に深める。＜グループ活動＞ →6の議論をもとにチャートを修正・改善しながら、多面的に12のラベルを捉える。</p> <p>8. 投票を行い、ベスト6を決定する。＜個人＞ →本時の活動を通して考えたことをもとに個人で投票を行い、結果を共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ランキングを行うことにより、個人のラベルへの見方を浮き彫りにし、様々な視点を洗い出すことができる。 最終的に自分達が地域に出て活動を興すことに目を向けさせ、<u>下線部の視点の重要性</u>について捉えさせる。 バブルチャートの利点、使い方について確認する。 任意のグループを取り上げ、バブルの配置や大きさの理由、その根拠となるデータ等を発表させる。議論を通して、地域課題を多面的に捉えさせる。 ○収集した情報を整理・分析し地域の魅力や課題を根拠をもとに適切に捉えると共に、中学生が関わるべき課題であるかを考え、表現している。【思考・判断・表現】 ※収集した情報:生徒が作成したレポートの内容 個人の考えが埋没しないように、最終的な投票は個人で行う。授業の最初にランキングした時との違いをメタ認知させたい。 															
終結 5	<p>9. 本時の学習を振り返りながら、今後の方向性をまとめる。</p> <p>【振り返りの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 改めてデータをもとに課題を見ることの大切さが分かった。盛岡だけでなく全国と比べたり、最近のデータだけでなく、数年間の変化を見たりすることも、「課題の重要度、切実度」を知る上で大切だと思った。 これから深掘りする地域課題を決める活動を通して、どのような視点で課題を捉えるかによって、<u>ランキングが変わることを実感した</u>。はじめは「課題の重要度、切実度」という視点しかなかったが、実際に私たちが関わることを考えると、「<u>中学生が関わるべき視点</u>」も大切だと思った。 「中学生が関わるべき視点」で考えると、<u>意外と私達にできることが多い</u>と思った。これから地域で生活する上で、<u>様々な課題に気づくようになる</u>と思っし、<u>日常で課題解決に向けてできることは何か</u>考えたい。 																